June 25, 1996 初の出会いは愛山渓

左手の林が途切れて、緑濃い広場が展開する場所で、たまたま明るい陽射がそそがれたとき、濃いオレンジ色がまわりの明るい緑に映える形でホソバヒョウモンが現れる。そのコントラストがとてもきれいで Video 撮影もしたいが、飛翔の感じからそこらでゆっくり遊ぶようにも思えず、ついネットが先に動いてしまう。このあと二度とホソバヒョウモンは姿をみせなかったので、採集目的が果せたことをよしとする。

July 21, 1997　瀬戸瀬温泉

JR 遠軽駅で瀬戸瀬温泉へのバス便を確認する。8 時 20 分発の便があるつもりで日程を組んでいたが、なんと日曜祭日は 13 時頃まで便はないとのこと。とてもそこまで時間をむだにはできなく時間を買ったつもりでタクシーを利用。30 分以上を要して瀬戸瀬温泉ホテルに着く。ホテル前広場路面ではもう複数のコヒオドシとコムラサキが吸水をしている。オオイチモンジを求めて林道に入る。やや新鮮度の低いホソバヒョウモンがあちこちに飛び、コムラサキやキバネセセリ、コチャバネセセリなどがキツネと思われる獣糞に群れ集っている。路傍のヒメジョオンや山際のヒヨドリバナの花には新鮮なコヒオドシやエゾスジグロシロチョウなどが群がって吸蜜している。林道の至るところに湿った部分があるが期待したオオイチモンジが吸水する姿はまったく見られない。

July 7, 1999：オンネトー

朝 8 時スタートでオンネトーにむかう。チョウはオオイチモンジがいればもうけもの。札幌の岡田さんからのＥメールによれば阿寒湖周辺の草原であればカラフトタカネキマダラセセリが期待できるという。ところがこれらはいずれも空振り。摩周湖同様、観光バスが着くたびに団体客による占有状態が繰り返される記念撮影場所周辺でコヒオドシが舞う。湖とは反対側のくぼ地に咲くタンポポ花上で求蜜しているヒメウラナミジャノメが実にきれいで Video 撮影のあとネットにも納める。普通種だが北海道産はやや大型でジャノメの模様がくっきりと浮き出てきれいに見える。続いて、湖側の土手に咲くタンポポ花上でも夢中になって密を吸うホソバヒョウモンの撮影をする。朝早くきたかいあって、オンネトー湖面がまるで鏡のように澄みきっており遠景が湖面に映った様はみごとというほかなし。やがて風がでてくるともうまったく様子が変わって、発生するさざ波のために湖面の透明さが消えうせる。遅く到着した観光客は先ほどまで見られた美しい湖面を知ることなく帰ることとなる。団体客の少ない奥に進むとやや開けた砂利広場があって、あちこちに咲く黄色いタンポポの花にはホソバヒョウモンが蜜を求めて群れており Video のいい被写体となる。

Copyright© 2009- Soft House JUMP. All rights reserved.